

国内での活動内容

IC国際フォーラム:

1977年以来、毎年1回、各国問題等の実情をマスコミ等からの情報ではなく、各国からの参加者を交えて、直接学び合い、それらの問題の解決の一助となるために、一人ひとりが出来ることを考え実践することを目的として開催しています。

学校訪問プログラム(SVP):

「国際理解とこころの教育」を目指して、2002年からの試行期間を経て、2009年から海外からの青年ボランティアを招いて本格的に始めました。2009年から19年までの10年間に、小学校から大学まで延べ248校、約2万人以上の生徒・学生の皆さんと交流してきました。多くの生徒さんたちがこの交流をきっかけに、他の国々や文化に関心を深めてくれ、「自分の心に聴く」というICのメッセージについても学んでくれました。また、16か国・地域からの38名の青年たちも「日本で多くの学びを得た」と感謝し、日本とそれぞれの国の良き架け橋となっております。

国内での交流活動

iListenJP、Quiet Time、勉強会、チームミーティング、各種交流会等を定期的に活動しています。詳しくは、お問い合わせください。

Quiet Time & ファミリーグループ

私達は日々の生活において、仕事・勉強・家事・育児・介護などに追われています。QuietTimeとは、少し立ち止まって、心を鎮めて静かな時間を持ち、心の声を聴き、そしてその声に従うことです。心の声は、自分の在り方や人との関係などについて、さまざまなことを語って来ます。心の声に従い、勇気ある一歩を踏み出す時に、家庭、社会や国際関係にさえ良い変化をもたらすというのがICの原点です。ファミリーグループは、小人数のグループでこのことを実践するセッションです。

海外での活動内容

世界のIC活動の纏め役ICインターナショナルのHP(<https://www.iofc.org/>)には各国におけるIC活動が紹介されていますので、是非一度ご覧下さい。

スイス・コー国際会議:

1950年に64名の日本代表団がコーの国際会議場に到着した時、日の丸と日本の歌で歓迎され、日本の国際舞台への復帰が果たせたと感じられた、感動的な瞬間がありました。スイス・コーにあるICの国際会議場では毎夏、より良い世界の実現を目指して1カ月以上に亘り、「人間の安全保障を考えるコー・フォーラム」等、様々なテーマでの会議が開催され、世界中から参加者が集まります。国、宗教、人種の壁を越えた人々が集い、奇跡的な和解が生まれる場として、今も変わらない存在であり続けています。



東北アジア(日中韓) 青少年フォーラム:

日本、中国、韓国の青少年同士が友情と信頼関係を育くめるよう、2004年より毎年夏の1週間、「東北アジアの融和のための青少年の役割」等のテーマで、韓国MRA/IC協会が主催している大学生交流プログラムに20名程度の日本人学生を募って参加しています。若い世代で構成されるこのフォーラムは、東北アジアの平和と繁栄を築くために様々なテーマについて議論し、若者ならではの解決策を提案する上で重要な役割を果たしてきました。

アジア・太平洋青年会議(APYC):

1994年より「個人の変化から、世界に変化をもたらすアクションを！」等のテーマにより、国籍・人種、それぞれの背景の違うアジア・太平洋諸国の青年たち(18-35歳)が集い、お互いの考えや社会奉仕活動の体験等を分かち合うことにより多くを学びあうことが出来ます。また、この会議への参加をきっかけとして、それまで他の民族や人種、或いは、異なった宗教を持った人々に抱いていた偏見や恐れ、また、苦々しい感情などを払拭することが出来たり、新しいアジア・世界のために、新しい自分の気づきから、どのような未来にしたいのか、アジアから世界に貢献するメッセージを発信したりしています。

アジア・太平洋連絡調整会議(APRG):

アジア太平洋諸国のICのチームから代表2名が参加し2年に一度開催される会議です。各国のICの活動への理解を深め協力し合い、同時にアジア太平洋地域のICチームとして、世界のICへの役割と貢献を改めて確認し見直す機会としています。またこの地域の連絡調整担当グループAPCG(Asia Pacific Coordinator Group)として7-8名を選出しています。

入会方法、インド及びスイス・コーでのインターンについての詳細は、お問い合わせください。

「意識の改革」

～みんなで築こう信頼の架け橋を～
Empowering Ourselves as a Trust Builders and Agents of Change

通訳付

参加費
無料

今の自分を知り 意識が変わると 何がどう変わるのか？

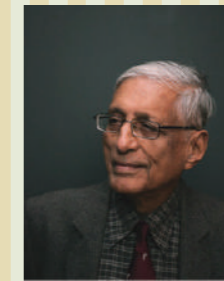
日時

令和3年(2021年)10月23日(土)13:00~21:00
& 24日(日) 9:30~17:00

オンライン
(Zoom)開催



基調講演: 寺島 実郎
23日(土)13:30~15:00



基調講演: ラジモハン・ガンジー
24日(日)09:45~11:00



特別講演: 柳瀬 房子
24日(日)11:00~12:15

IC (Initiatives of Change, ICMRA)は、私たち一人ひとりが心の声を聴き、それに従い勇気ある一歩を踏み出す時、家庭に、社会に、そして国際関係にさえ良い変化をもたらす、という実践的な運動で、世界60カ国以上で展開している国連認定のNGOです。

世界はこの1年半余、新型コロナウイルス感染症の対応に追われてきましたが、一方では保護主義や人権・人命を軽視する行動など、これまで世界の平和と繁栄を支えてきた普遍的価値や国際秩序に挑戦する動きが散見されます。また、人類の存亡を揺るがしかねない環境問題や気候変動が顕在化しています。今、私達は「意識を改革」し、多様性を認め合い、国や民族を越えて信頼を構築し互いに手を取り合って、平和で安定した成長を目指し前進する努力を惜しまないことが強く求められています。

本年は、IC運動の提唱者フランク・ブックマン博士が英国オックスフォードで平和の創造(人間性の変革による)の活動を開始して100年、またICがスイス国際会議場のマウンテンハウスを開場して75年の節目にあたります。そこで、今回のIC国際フォーラムでは、ICの過去の活動を振り返り、それを基に未来に挑む内容としました。

このフォーラムでは、さまざまな背景をもつ国内外の多彩な参加者と話し合い、そして自分自身を見つめることを通じて、どのような家庭を築き、どのように社会に貢献するか、また危機を乗り越えて持続可能な平和な世界を目指すための自分の役割は何か、ということを見出す契機にして頂けると思います。

申込用QRコード



<https://iofc.online>

IC国際フォーラム

一次締切:10月8日(金)

【個人情報について】
お申込みにあたりいただいた氏名、住所等の個人情報は本フォーラム以外では使用いたしません。

2021年10月23日(土) 13:00開始

13:00~13:20 会長挨拶:矢野 弘典



矢野会長が、IC(MRA)と出会われたのは1976年、土光敏夫初代会長の下で、この国際フォーラムの第1回目が開催されたときです。その後、スイスのコー、インドのパンチガニー、英、米、韓、ノルウェーほか各国の集いに、ご夫妻で何度も参加。また、東芝、経団連、中日本高速道路時代を通じて海外経験も豊富で、海外の多くのご友人と家族ぐるみのおつきあいが続いています。学生時代には柔道にも打ち込まれ、この時の武道精神が今の相撲協会・横綱審議委員長としてのご活躍に生かされているのでしょう。

当協会の会長就任は、元会長の相馬雪香氏や前会長の橋本徹氏の強いお薦めによるものですが、永年に亘るIC活動の経験を活かし、当協会が事業継続の厳しい局面に立たされた時も、会長として当協会を導かれました。趣味として、長年囲碁とチェロに親しみ、論語の研究にも取り組み著書も3冊上梓されています。当協会でも、今秋から「論語塾」の講師を務めていただくことになっています。

13:30~15:00 基調講演:寺島 実郎



一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長他、多くの分野で精力的にご活躍中。テレビにも、「サンデーモーニング」やTOKYO MX1「寺島実郎の世界を知る力」(毎月第3・第4日曜)等にご出演されています。北海道に生まれ高校まで、お父上の仕事の関係で、炭鉱町の厳しい環境の中で過ごされました。社会問題にも幼少期から関心を持たれ、問題解決のための情報を求めて人一倍の読書をする少年でした。一例を挙げますと、高校1年の時に全く面識のない当時ヨーロッパ大使の鹿島守之助氏(元(株)鹿島建設社長)に「リヒャルト・クーデンホーフ=カレルギーの本(世界平和を標榜する欧州連合の理念の先駆者)」を送ってほしいと直接手紙を送られ、後日数冊送って頂いたそうです。このエピソードからも、氏の多角的思考力、知への行動力が伺えます。この時の感激が、その後の早稲田大学大学院卒業後、三井物産に就職し世界で活躍されるきっかけになったのではないのでしょうか。海外での十数年の貴重な体験を通じての、真の国際人になるためのヒントを伺えると思います。

15:00~15:40 Quiet Time : ジャヤン (ドルジー) & ジスン・チョン夫妻 (韓国)



ジャヤンは1988年チベット生まれ、子供の時に難民として徒歩で山河を超えインドに渡り生活する中で、インドICの人々に出会い、生きる真の目的を見出しました。同じICの研修を受けた韓国人ジスンと結婚し、チベット系韓国人として韓国に居を移し、息子と3人で新たな挑戦の一步を踏み出しています。

30代前半の若い彼らが歩んできた苦難の道のりや、どのような世界観を抱き、どのような挑戦を続けているのかを知り、このフォーラムにご参加の皆さまの世界観を比べてみると、何か新しい気付きがあるかも知れません。

15:40~16:50 体験型シェアリング ~ファミリーグループ~

世界に一つ、信頼のファミリー:明日への自分、世界に恩恵を与えるために、自分の心の声に耳を傾けましょう！この時間は自分の心の声に耳を傾け、未来の自分へ“時間の投資”を行います。それまでに聞いた講演から感じたことを基に、自分のために何をしたいのか、しなければならぬのかを知り、新たな方向性を見出します。

同じグループの人はファミリー:年齢的に親・子・孫のようなグループ構成にし、家族のように打ち解け、共感でき、親身に考えることができる環境の中で将来について共に考えていきます。あなたは自分のためにどのような意識改革をしますか？

17:00~18:00 特別講演:アンドリュー・スタリーブラス (英国/スイス)



1948年英国生まれ。両親がMRA(現在はIC)活動に参加していたため、子供の時から両親と一緒にICに触れてはいたが、19才の時に自分もICの確信を持って生きる決意し、専従として世界各国におけるIC活動に従事。今年75周年を迎えるスイス・コーの国際会議の企画・運営を始め通訳・広報面でも活躍しています。

また、ICに関する国際的な出版社「Caux Books」の責任者を長年務める傍ら、作家やジャーナリストとしても活躍中です。現在、スイス人の夫人と共に、スイスの国際会議場で新しい人生を見出した人々の足跡を紹介するWeb: < For A New World >の編集に取り組んでいます。

第二次世界大戦により相互信頼関係が崩れた欧州各国に和解を導き、また日本を世界コミュニティーの一員として招き入れる役割を果たしたスイス・コーIC国際会議場は今年で75周年を迎えました。これまで繰り返されてきたICの歴史を辿りながら、一緒に新しい日本の進むべき道を考えてみませんか。

19:00~21:00 ~教育で拓く信頼の架け橋~ 学校訪問プロジェクト (SVP)

このプログラムで2013年に来日したインドネシアのヨフリナ・ガルトムさん(大学講師)と2019年に来日したニアス・ワニムボ氏(教育NGO主宰)からお話を伺います。インドネシアは、人種・宗教・言語・文化等の多様性に富み、ニアスさんは、パプア系でヨフリナさんとの風貌も違います。ヨフリナさんは、イスラム教徒が大多数なインドネシアで少数派のキリスト教徒であり、中国系インドネシア人の生徒たち向けの学校も教えてきました。彼女は、教育を通してどのように異なるコミュニティに橋を架けようと努めてきたのでしょうか？一方、ニアスさんは、まだ識字率も低く教育環境の整わないパプア州で、特に子供たちのために、図書館を作るなどの活動を続けています。彼の活動ぶりや、抱える問題点を知りたいと思います。更に、彼らが訪ねた小学校の生徒だった木村陸さんは、現在、大学生となり、友人たちとNPO法人ソフトテニス振興会BIGCONCを立ち上げ、日本生まれのスポーツ「ソフトテニス」の世界への紹介にとどまらず、世界を少しでも良い方向に進めることを目指して活動をしています。若い皆さんのお話の後には、質疑応答や意見交換の時間も設けていますので、奮ってご参加下さい。

2021年10月24日(日) 09:30開始

09:30~09:45 名誉会長挨拶:橋本 徹



若い頃から英語に関心が深く、東大時代にも柔道部と英語研究会に所属。留学や海外赴任の経験があり、金融ビジネスは勿論、数々の企業再建や国際業務の強化に貢献されるなど幅広い経験を持たれています。富士銀行時代に、以前からの知己であられた羽田孜元総理より国際IC(MRA)協会の会長就任への依頼を受け、「フランク・ブックマンの秘訣」や「日本の進路を決めた10年」などIC(MRA)に関する書籍を読まれました。IC活動の1つである「東北アジア(日中韓)青少年フォーラム」が、毎年夏の一週間、日中韓の青少年同士が合宿し、将来のこの地域の平和と繁栄のため議論と交流を深め、身近な体験を語りあう等、道義をベースにして和解と対話を重んじている活動であることに理解を深められ、この運動が自分の考えに合うと快諾されました。2001~2008年まで国際IC(MRA)日本協会会長として、現在は名誉会長兼特別顧問としてご尽力頂いています。

09:45~11:00 基調講演:ラジモハン・ガンジー(インド)



1935年インド生まれ。米国イリノイ大学教授。元インド上院議員。

非暴力を通じたインド独立に身を捧げ「独立の父」として知られるマハトマ・ガンジー翁を祖父に持つラジモハン・ガンジー氏は、12才の時、祖父が暗殺される前の6か月間、祖父と共に過ごしました。現在はマハトマ・ガンジーの生涯とその思想の研究者で、ジャーナリストとしても活躍中。1956年からMRA(現在はIC)活動に参加、人種・宗教・階級・職種・ジェンダー・国籍を超えて、誰もが人として尊厳を持って生きることのできる社会を築くために尽力し、また長年にわたり、インドとパキスタン、またヒンズー教徒とイスラム教徒との和解に努めてきました。混迷する世界の中で、今、新しい社会の創造のために何が必要か、また、苦境に立つ人々がどのような決意のもとにイニシアチブをとってきたかという話しを交えながら、会議参加者のお一人おひとりに、大切な役割と責任があることを気付かせてくれることでしょう。

11:00~12:15 特別講演:「難民を助ける会」名誉会長 柳瀬房子



1975年ベトナム難民は国を追われボートで海をさまよい、やっと日本にたどり着いた時、日本政府は定住を認めず、第三国へ送還しました。その状況を知った(故)相馬雪香元 IC 会長はこのままでは、日本は世界から孤立する、と政府に難民受け入れや救済を何度も請願し、そのための資金作り奔走し、「国民一人が1円出しても全員だと一億円になり集まるはず、欲しいのは日本人の暖かい心」と呼びかけ、「インドシナ難民を助ける会」(現難民を助ける会)が設立されました。

設立当時から柳瀬房子氏(現名誉会長)は相馬雪香氏(創設者)らと共に活動を開始、海外の難民キャンプへの支援物資の輸送に直接現地へ飛び、食料と共に”愛のポシェット“を作り手渡しました。また、そのころ各地にばらまかれ放置されたままの地雷の撤去にも加わりました。難民子弟の日本での学校教育、職業訓練の提供など40年にわたり活動された柳瀬氏の歩み、「難民を助ける会」の動きなどを語っていただきます。

13:15~13:55 Quiet Time : ナンドール&ウェニー・リム夫妻 (マレーシア)



ナンドールは1974年マレーシア生まれ。中国系3世。子供の頃から長い間、両親との関係に苦しむ中で、台湾ICの劉仁州夫妻との出会いにより、自分の心の解放を決意し両親と和解しました。

妻ウェニーと共に、マレーシアの中国人コミュニティで、人々の心の成長のための研修を立ち上げ、社会の一員として、一人ひとりが生きるための心の成長への方向性を示しています。

マレーシアは、マレー系・中華系・インド系の人種が混在し、宗教はイスラム教・仏教・ヒンドゥー教・キリスト教などがあり、人種、宗教、文化等の多様性が特徴の国です。

世界で多様性が求められている今日、私達が彼らから学ぶものがきっとあるはずです。

14:00~15:10 体験型シェアリング ~ファミリーグループ~

世界に一つ、信頼のファミリー:明日への自分、世界に恩恵を与えるために、自分の心の声に耳を傾けましょう！この時間は自分の心の声に耳を傾け、未来の世界へ“時間の投資”を行います。地球に住む「地球人」の一員として、あなたは世界に何をもちたることが出来ますか。1人が変われば世界はその分変化します。今からでも行動できる。でも具体的に何をすればよいのでしょうか？同じグループのファミリーとともに、今回講演を聞いて学んだことを活かし、地球そしてファミリーの一員として考えていきます。あなたは世界のためにどのような意識改革をしますか？

15:30~16:50 『日中韓青少年フォーラム参加者によるディスカッション』 東北アジア(日中韓)青少年フォーラム

日本、韓国、中国の青少年同士が毎年夏の一週間、3カ国の未来を真剣に考えて議論をしたり文化交流等を通して友情を育んでいます。この時間は、過去に日中韓青少年フォーラムに参加したメンバーが中心となり日中韓の文化や課題等について考えるグループディスカッションをおこないます、次の日から3カ国の未来をチェンジしたくなる！そんな場を設けております。

16:50~17:00 閉会挨拶

◆ご注意とお願い… 録画、録音はご遠慮ください。状況によりスケジュールや内容が変更する場合がございます。プロフィール及び詳細は、ホームページでご確認ください。https://iof.online

〔一次締切を10月8日(金)とさせていただきます。お申込み多数の場合、締切となる場合もありますので、早めにお申込みください。〕